

教育データ解釈入門Ⅰ＆Ⅱ

■講師



中山 晃(愛媛大学 教育・学生支援機構 准教授)

平成8年8月より約2年半の兵庫県立公立高等学校臨時講師を経て、平成17年6月、国際基督教大学にて博士(教育学)の学位取得。平成21年度より現職。日本学校心理士会愛媛支部・支部長、大学英語教育学会(JACET)アカデミック&ティーチング・ポートフォリオ研究会・代表。



清水 栄子(愛媛大学 教育・学生支援機構 講師)

安田女子大学文学部英語英米文学科卒業。桜美林大学国際学研究科大学アドミニストレーション専攻修士課程修了。広島大学教育研究科人間科学専攻博士課程修了(博士(教育学))。学校法人安田学園安田女子大学、公立大学協会事務局主幹、阿南工業高等専門学校 FD 高度化推進室特命講師、愛媛大学教育企画室助教を経て、2015年4月より現職。著書に『アカデミック・アドバイジングーその専門性と実践ー日本の大学へのアメリカの示唆』(単著)がある。愛媛大学教職員能力開発拠点 SDC／SPOD-SDC。

■プログラム概要

この講義で扱う教育データ(量的指標)は、①期末試験や英語の検定試験等の結果から得られるテストデータと、②学生を対象とする全学的な調査、授業満足度や個人の意識を問う質問紙等から得られる調査データ、の2種類とします。一コマ目の講義では、前者と後者に共通する項目として、平均値と標準偏差の関係についての基礎的な理解の他、集合データの平均値と関連するデータとの相関関係から一定の命題を推定する際に潜む危険性(例:生態学的誤謬、選択バイアス)を扱います。二コマ目の講義では、①については、相関関係についての理解を深めるグループワークを、②については因果関係について理解につながるグループワークを、架空のシミュレーションデータ(実際に大学の様々な会議等で扱われている教育データを加工したもの)を用いて行いますので、教育データ読み取りのスキルを、体験を通して習得することができます。

■主な受講対象

教職員。入門～やや中級レベルの内容を扱いますので、「基礎的な」統計データ(指標)の読み取り方法と、その際の留意点について、興味のある方をみなさん歓迎いたします。特に、IR関連データを扱う部署に、初めて配属となった職員の方にとっては、様々な指標をどう評価・判断するのかといったことについて考えるよい機会になるかと思えます。

■本プログラムの到達目標

1. 平均値と標準偏差の関係について、具体的に説明できる。
2. 量的データ(指標)の解釈に際し、注意点を簡潔に説明することができる。
3. 相関関係と因果関係の相違点について、簡潔に説明することができる。
4. この研修を通して得られたスキルを、参加者自身の職場で報告されている教育データの解釈に活用することができる。

■日時・会場

日時:平成28年8月26日(金)10:00～15:00

会場:愛媛大学城北キャンパス